

群馬大学重粒子線医学研究センター 研修報告書

研修者の氏名	山崎 雄平
研修者の施設	筑波大学大学院人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻
研修期間	2014年9月1日 ~ 2014年9月5日
受け入れ担当者	金井 達明
報告書記載日	2014年9月10日

今回はご多忙の折、研修を受け入れていただきありがとうございました。

私が貴施設で研修することが、医学物理部門の先生方に伝わっていなかったにもかかわらず、心温かく対応して頂き深く感謝しております。研修初日では、私が早朝に伺ったこともあり、診療放射線技師や医学物理の先生方に混乱を生じさせてしまいご迷惑をお掛けしましたことをお詫びいたします。

今回の研修で特に印象的であったのが、IMRTと重粒子線の治療計画です。IMRTでは頭頸部、重粒子線では前立腺と骨軟部の治療計画を拝見しました。貴施設では、PTVを決定するのはDrが行い、それ以降の作業である照射方向、門数、線量分布の作製は医学物理士が行います。特に私が難しいと感じたのは、治療計画を立案する時に、臓器の線量制約を満たす必要があるのですが、その時に、各臓器の線量制約で並列臓器、直列臓器の違いで最大線量を指標にする場合と平均線量を指標にする場合があることです。また、早朝のカンファレンスにも参加させて頂き、医学物理士の方が、自身が作製した治療計画についてDrに説明している場面を拝見し、医学物理士がたくさん臨床で活躍されていることに感銘を受けました。今回の研修では、私自身臨床の経験が全く無かったので、その経験を短期間でありましたが培うことができ大変有意義な時間を過ごしたと思っております。